

沿 革

昭和 29 年日本政府の重要施策の一環として“第一次道路整備 5 カ年計画”が発足以来、国 を挙げての道路建設に本格的に取り組む時代の様相となり、道路整備は急激な威勢で進み ました。道路が整備されていくにつれ、建設された道路の保守管理が如何に重要であるかが 認識され始め、昭和 33 年度から建設省(現国土交通省)直轄による国道指定区間の維持管 理が開始されました。

文化国家を保つ上からも、その重要性が大きく再認識され道路清掃の仕事は、道路維持管 理の一環として一般の維持管理よりも、一步遅れてスタートしました。建設省(現国土交通省)は、直轄維持体制が進むにつれて昭和 35,6 年より主要都市にロ ードスイパーの採用が行われ、清掃機械による清掃体制が整えられたのは昭和 37 年ころでした。当初は直営で、38 年当時よりテストケースを経て請負制度が採られるようになりました。

(昭和39年9月)

東京オリンピックの開催を契機として、道路環境に対する関心も急速に高まりこれに呼応 して次々に業者が名乗りを挙げ、道路清掃業務を軌道に乗せるため関東地区の道路清掃関 係の専門業者により「日本道路サービス協会」を設立した。

(昭和41年3月)

業務の拡大に対応し、「日本道路サービス協会」を母体とし、「日本道路清美協会」と「東 京道路美装協会」の2団体を設立した。

(平成25年1月)

協会名を、「日本道路清美協会」から「日本道路清掃技術協会」に改称

(平成25年6月)

「一般社団法人日本道路清掃技術協会」(会長・沓掛哲男)

(令和元年6月)

「一般社団法人日本道路清掃技術協会」(会長・辻 靖三)

(令和5年6月)

「一般社団法人日本道路清掃技術協会」(会長・田中 康順) 就任、現在に至る。

現在の会員企業は34 社(R7.4.1 現在)